



# スタティック ルート ブリッジ ドメイン

この章で説明する内容は、次のとおりです：

- [スタティック ルート ブリッジ ドメインについて（1 ページ）](#)
- [GUI を使用してブリッジ ドメインでのスタティック ルートを設定する（2 ページ）](#)

## スタティック ルート ブリッジ ドメインについて

[Cisco APIC] リリース 3.0 (2) では、ファイアウォールの背後にある仮想サービスへのルーティングを可能にする、パーべイシブブリッジ ドメイン (BD) でのスタティック ルート構成へのサポートが追加されました。

この機能は、通常の EPG の使用を通して、エンドポイント (EP) がパーべイシブブリッジ ドメインに直接には接続されていない IP アドレスへ到達することを可能にします。

スタティック ルートを構成すると、[APIC] は、それをブリッジ ドメインを使用しているすべてのリーフ スイッチ、およびそのブリッジ ドメインに関連付けられた契約を有しているすべてのリーフ スイッチに展開します。

エンドポイントの到達可能性は、[APIC] GUI、NX-OS スタイル CLI および REST API を使用して構成できます。

### 注意事項と制約事項

- サブネットマスクは、/32 (IPv6 の場合は /128) にしてファブリック内の 1 つの IP アドレスをポイントする必要があります。すでに定義されているブリッジ ドメイン サブネット内にルートを追加しないでください。
- ネクストホップは、この EPG が関連付けられているのと同じブリッジ ドメイン内にある必要があります。
- この機能は、名前の末尾が EX である [Cisco Nexus 9000] シリーズ スイッチとそれ以降の機種によりサポートされています（たとえば N9K-C93180LC-EX）。
- エンドポイントの到達可能性機能は、リモート リーフではサポートされません。

■ GUI を使用してブリッジ ドメインでのスタティック ルートを設定する

# GUI を使用してブリッジ ドメインでのスタティック ルートを設定する

- ・スタティック ルートのサブネットを作成するには、epg (fvAEPg で fvSubnet オブジェクト)、普及 BD (fvBD) 自体 BD しないに関連付けられているように構成されます。
- ・サブネットマスクが/32 にする必要があります (128/for IPv6) 1 つの IP アドレスまたは 1 つのエンドポイントをポイントします。これは、パーべイシブ BD に関連付けられている EPG に含まれます。

## 始める前に

テナント、VRF、BD、および EPG の作成

## 手順

---

**ステップ1** メニュー バーで、[テナント (Tenants)] > [*tenant-name*] をクリックします。

**ステップ2** ナビゲーションペインで、[アプリケーション プロファイル (Application Profiles)] を拡張し、アプリケーションプロファイル名をクリックします。

**ステップ3** [アプリケーション EPG (Application EPGs)] をクリックして、スタティック ルートの EPG を展開します。

**ステップ4** [サブネット (Subnets)] を拡張し、スタティック ルートのサブネットを右クリックして、[EPG サブネットの背後にあるエンドポイントの作成 (Create Endpoints Behind EPG Subnet)] を選択します。

**ステップ5** エンドポイントの [ネクストホップ IP アドレス (NextHop IP Address)] を入力して、[更新 (Update)] をクリックします。

**ステップ6** [送信 (Submit)] をクリックします。

---

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。